

白緋(しろがすい)

白緋(しろがすい)とは、白地に緋(かすい)模様を織り出した日本の伝統的な織物の一種

白緋は、白を基調とした生地に、緋糸を使って模様を織り出したものです。

直進といふ潔さつばくらめ

天水に切り花浮かべ牡丹寺

湯上りの男の伊達や白緋

武蔵野の伽藍ひそりと紅葉冷



湯上いの 男の伊達や 白緋

ゆあがいの おとこのだてや しろがすい

白地に藍や黒でかすり模様を表した織物。



大和白緋(やまとしろがすい)



白緋

武蔵野の 伽藍ひそいと 紅葉冷

むさしのの がらんひそいと もみじびえ



紅葉冷



瑞泉寺

「紅葉冷」という言葉は、一般的に「紅葉」と「冷」を組み合わせた造語で、特に秋の冷え込みが紅葉を促進する現象を指す。



山門



仏殿

古色蒼然とした藁葺き屋根の山門 仏殿と紅葉

平林寺（新座市）

武蔵野の範囲

武蔵野の範囲について明確な定義はないが、広辞苑によれば「荒川以南・多摩川以北で、東京都心までの間に広がる武蔵野台地」であり、また広義には「武蔵国全部」を指すこともあるとされる。



広 園 寺 (八王子)



高幡不動仁王門



“武蔵野の雑木林”の面影を今に伝える三芳町（埼玉県の南西部）上富（かみとめ）の平地林。営農サイクルの中で絶え間ない手入れによって維持されている

直進と いふ潔さ つばくらめ

ちょくしん という いさぎよさ つばくらめ

「つばくらめ」は、ツバメの古称です。古くは「つばくらめ」とも呼ばれていました。漢字では「燕」と書き、春の季語としても使われます



燕がまっすぐに飛んでいく様子を表す言葉

天水に 切い花浮かべ 牡丹寺



てん・すい【天水】の解説

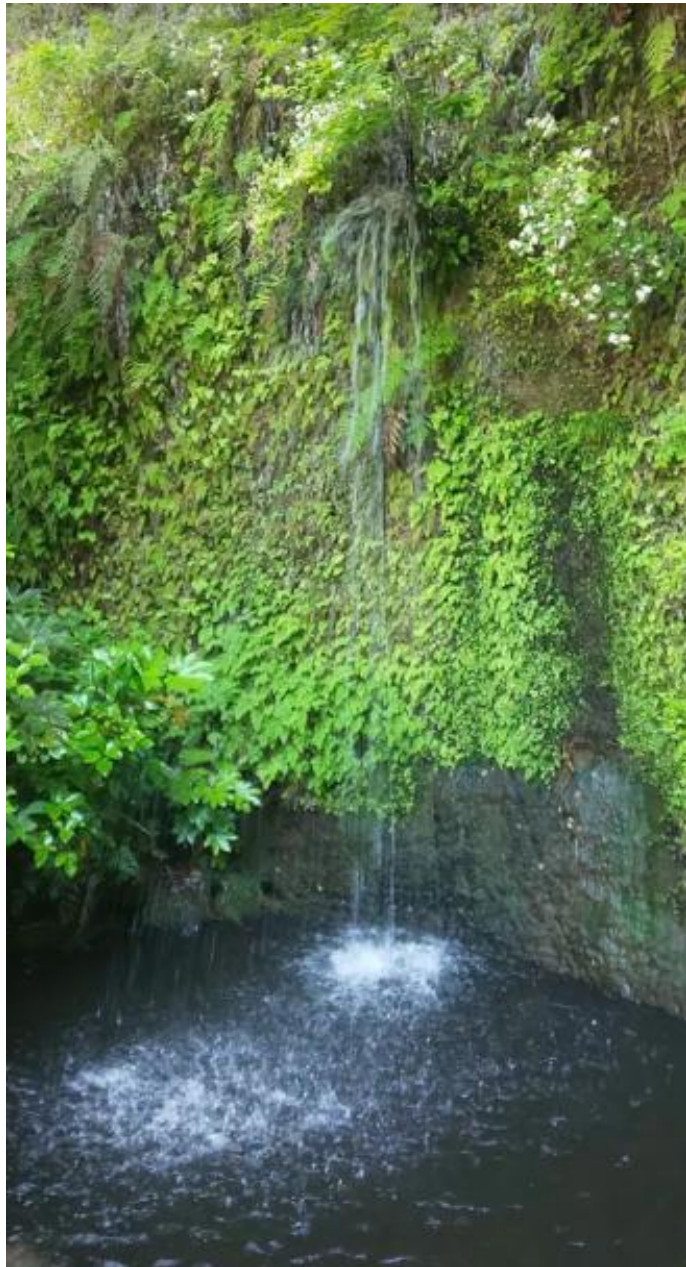
1.1 空と水。水天。

2.2 天から降る水。雨水。

3.3 「天水桶」の略。

ぼたん・でら【×牡丹寺】の解説

境内に多くの牡丹が植えられている寺院、また、牡丹の名所である寺院の通称。各地に所在。



空と水。水天。



牡丹



天水桶



東長谷寺薬王院

END